



自ら機会を作り出す
人材を輩出する

2025
特別号

SOEN

語れる体験はあるか

教室外学習の情動効果—学びを更新する
仲間と回す、学びのP・D・C・A—必要な学び
終わらせない挑戦が、次の本を連れてくる。

知識は検索で手に入る。だが、関係は検索できない。AIの優位はあつという間に消け、最後に差をつくるのは「関係の質」だと。問われる。「事と組み、どう信頼を運用するか」。若書きやスキルの羅列では動かない世界で動くのは、顔の見えるつながりと、約束を守り合ってきた履歴だ。つながりこそがゴールではない。解決のための手段だ。だからこそ、出会いを仕組みに変える必要があり、役割を決め、期待をそろえ、小さく試し、ふり返って次に生かす——この当たり前の循環が、関係に厚みを与え、物事を前に進める推進力になる。教室で得た知識を、現場で通じる行動に訳すには、こうした関係の土台が欠かせない。そして何より、自分の手でかした「語れる体験」が、人と人をつなぐ共通言語になる。どんな課題に向き合い、誰と組み、どんな合意で動かし、何が変わったのか——その物語を自分の言葉で語れる人は、次の挑戦を助ける。AIが知識を持つ時代に、社会を前進めるのは、「何を変えたか」を説明できる。データは誰でも持てる。だからこそ、最後に効くのは誰と組み、何を成したか。関係は目に見えにくい。確かな価値を生む資産であり、未来を支える見えないインフラだと思う。

失敗は材料 知るさとをつなぐ
やり抜く力が結果に表れる “おせっかい”の輪
地域とつながる学びが、果てから広がる“自分事”
になる。未来の。





これからの教育の100年を考えるために、

教育の10年をデザインする

二〇二五年八月
ソアンは三期目を迎えました
今までにない新しい価値を生み出すために
ソアンは挑戦し続けます

「教育の十年をつくり、未来の百年を変える」

「すべての人が自分の価値を見出し、
他者と共に生きることを楽しむ社会」
を目指すために
「社会の課題に向き合い、
新しい価値を生み出す人」
を輩出する

教育にできることは何か
地域と共に、教育の次の百年を支える
十年の仕組みを築いていきたいと考えています。



ソアンとは、ソーシャルアントレプレナープロジェクトの略です。ソーシャルアントレプレナーとは社会課題の解決を「本業」に加え、起業家の発想と仕組みづくりで持続的な社会的インパクトを生み出す人を指します。このプロジェクトでは、自ら持つ「得意」を活かし、地域の課題を「解ける仕組み」に変える人材を育成します。



ソアンの歩み

- 2023.8**
ソアン広島プロジェクトスタート
- 2023.10**
ソアンパートナーズスタート
- 2023.12**
ソアン地域連携商品開発スタート
- 2024.2**
ソアン沖縄プロジェクトスタート
広島空港ソアン展示会開催
- 2024.4**
ソアンを通して伸びた
社会情動的スキル(非認知的スキル)の
ふりかえり教育プログラムスタート
- 2024.9**
ソアンポッドキャスト配信スタート
- 2024.12**
ソアン地域事業会社パートナーズ契約スタート
- 2025.3**
2024年度ソアンプロジェクト年間
120プロジェクト達成
- 2025.7**
大阪万博ジュニアEXPO2025教育プログラムにて
ソアンプロジェクトが全国の30校に選出
- 2025.11**
ソアンビジョンマップリリース
- 2024.3**
2023年度ソアンプロジェクト
年間32プロジェクト達成
- 2024.5**
ソアンいのちプロジェクトスタート
- 2024.12**
ソアン地域事業会社パートナーズ契約スタート
- 2025.1**
第5回広島空港主催プロポーザル大会
最優秀賞受賞
- 2025.4**
ソアンチームプロジェクト始動
一般社団法人サムワン基金「悪おくり奨学金」
連携スタート
- 2025.10**
大阪万博オーストラリアパビリオンステージ出演

To the next future

日頃よりソアンのチャレンジャーにこそ支援をいただき、心より感謝申し上げます。

私自身、教育の世界に転職してから今年で4年目を迎えますが、日々多くの学びと喜びをいただきたが、この仕事に携わっております。特に、ソアンのチャレンジャーの一員として関わらせていただいていることに深く感謝しています。

【なぜ、ソアンに？】

改めてなぜソアンを立ち上げたのかを振り返ると、その背景には私自身が社会人としてPRの領域で培ってきた価値観が大きく関係しています。

当時、「ソーシャルグッド」という言葉が注目され始め、社会に良い影響を与える企業や活動が評価されるようになっていました。私は、これからの時代を生きていく子どもたちにとっても、社会善的な感覚——つまり「自分の行動が社会にどう貢献しているか」を考えた、学校という場の存在意義も、そうした感覚を育むことにこそあるのではないかと考えたのです。

いまやSDGsの浸透により、企業に社会的責任が求められるのは、あたりまえの時代になりました。

PR界の第一人者である鳩山一郎氏の著書『あたりまえ』の「つくり方」では、アイデアやサービスは「ただ優れている」だけでは社会に広がらず、「多くの人がそれとていいと合意できること」が大切だと述べられています。

この考え方は、まさにソアンの理念と重なります。社会課題を自分ごととして捉え、他者と協働しながら解決策を導く。その経験は、子どもたちがこれから社会を生き抜くうえで欠かせない力になると確信しています。

【ソアンの価値】

立ち上げ当初、私自身の関心は「学校がどう社会に存在価値を示せるか」という側面でありました。けれども、実際に生徒たちが地域の方々と共に活動する姿を見ていくうちに、このプロジェクトの教育的価値の高さを日々実感するようになりました。

子どもたちが自ら考え、動き、社会に小さな変化を起こしていく。その過程こそが、教育の本質ではないかと感じています。

そして、ソアンを通じて生まれる最も大きな価値の一つは、「チャレンジを楽しむ大人との出会い」だと思っています。地域で活躍する方々は皆、生き生きと社会課題に取り組み、その姿勢が子どもたちに大きな刺激を与えています。

首都圏から離れた、決して便利とはいえない大和町という場所で、情熱をもって活動されている大人たちと出会うことは、子どもたちにとってかけがえのない経験になっています。

大和町には、チャレンジを楽しむ大人たちがたくさんいます。小さなコミュニティの中で、これほど多くの方々と出会うことは本当にありがたいことです。

子どもたちがそうした大人たちと出会うことで、「働くって楽しい」「生きるって面白い」と感じてもらえること——それが、ソアンが目指す「命をつなぐ社会づくり」につながると思っています。

【AI時代に生きる子どもたちへ】
今年度、私自身も大学院での学びを始めました。京都芸術大学大学院・学際デザイン研究領域において、「旧きを継ぐ文化・伝統の探究力」と「現在・未来を構想するデザイン思考の創造

力」をテーマに、地域や社会の課題解決を目的としたデザイン思考を学んでいます。

学びを深めるほどに、ソアンのチャレンジがどれほど意義のある取り組みであるかを、改めて実感しています。教育という領域を現代社会の中でどのように位置づけ直すか——その問いを考へることが、いまの時代においてますます重要になると感じています。

AIがあらゆる分野で人の役割を代替していく時代に、私たち人間が持ちうる本質的な価値とは何か——この根源的な問いに向き合うことこそ、教育の使命の一つではないでしょうか。

その意味で、ソアンが大切にしている「語れる体験」は、知識がAIに代用される時代にあっても、普遍的な価値を持ち続けるものだと思っています。AIをどう使うか。そのために、どんな自分であるべきか。

ソアンでの経験が、その原点となるよう願っています。

最後になりますが、これまでソアンの活動を支え、共に歩んでくださった皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。

皆さまの温かいご理解と協力があってこそ、子どもたちは社会と出合い、挑戦し、学びを深めることができています。

これからもソアンは、地域とともに、子どもたち一人ひとりの可能性を信じながら、命をつなぐ教育のかたちを追求してまいります。

引き続き、温かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

【学習との両立は？——アウトプットが勉強を促す】
「活動が忙しくて勉強が疎かに……？」という不安は当然です。けれどソアンでは、学びが活動で使われる設計になっています。

市場調査は数学の統計、原価計算は算数・社会、広報文は国語、プレゼンは英語表現。つまり教科のインプットが即座にアウトプットへと接続され、理解が深く、長く残る。適切な役割があるからこそ、計画の立て方・優先順位づけ・集中の仕方にも身につきます。成績は「時間の量」よりも「時間の質」で伸びる——その実感が、学習行動を前向きに変えていきます。

【これからの時代に必要教育/ソアンがめざすもの】
正解のない時代に必要なのは、「正解をつくる力」です。情報を集め、問いを立て、仲間と話し、失敗から学びなおす。ソアンはその連続の場です。私たちがめざすのは、

・ 挑戦が日常になる学校（小さく始めて、速く学ぶ）
・ 地域と共に育つ学び（教室と社会を往復し、価値を循環させる）
・ 「語れる体験」が文化になるコミュニティ（もたらした機会を次の誰かへ手渡す）

子どもたちの挑戦は、社会を少し良くし、社会からの信頼は、次の挑戦を生みます。挑戦が人をつなぎ、物語になる。その物語の主人公は、いつも子どもたち自身です。ソアンは、彼らが自分の足で立ち、他者と手を取り、未来を共に設計する力を育て続けます。

【ソアンとは？】
ソアンは、地域のリアルな課題を「自分ごと」に変え、企画・実践・振り返りまでを生徒主体で回す教育プログラムです。私たちが定義するソーシャルアントレプレナープロジェクトとは、社会の困りごとに仮説を立て、限られた資源で価値を生み、関わる人すべてが少しずつ良くなる仕組みを作る挑戦のこと。商品づくりでも、居場所づくりでも、広範囲でも構いません。大切なのは「誰の、どんな痛みを減らすのか」「そのために何を手放し、何を生み出すか」を自分の言葉で語れることです。

関係が、未来のインフラになる。 AIに代われない、語れる体験を。



SOEN Founder 中村 光



SOEN Founder 山口 大



#自己効力感

失敗は材料 やり抜く力が結果に変える



ソアンを通して気づく社会情動的スキル

ソアンは3期目に入りました。地域の現場での挑戦を通じて、子どもたちが「社会と学び」を往復する循環が少しずつ根づいています。私たちは毎年、振り返りとして社会情動的スキル（非認知スキル）のアンケートを実施し、協働力・やり抜く力・共感性・メタ認知などの変化を可視化してきました。数値は、日々の小さな挑戦が確かに力へと変わっていることを示してくれます。

ただ、私たちが何より大切にしているのは自己効力感です。スキルが上がることはもちろん重要ですが、それ以上に、「やってみたらできた」「次はもう少し遠くまで行ける」という感覚が、学びと人生の推進力になります。ソアンは、その最初の一步を踏み出す「きっかけのひとつ」でありたい。完璧な準備より、小さな実行。成功も失敗も、次の挑戦の材料になります。

3期目のソアンは、これまで以上に挑戦の入口を広げ、ふり返りを通じて自分の変化を言語化できる場をつくりまします。数値で見える成長と、胸の中で芽生える「できるかもしれない」の実感。その両輪で、子どもたちの物語を前に進めていきます。

○社会情動的スキルとは

社会情動的スキル（SEL／非認知スキル）とは、テスト点に現れにくい感情・思考・対人の力の総称で、学習・仕事・生活の土台になります。具体的には、自己認識（強み・感情を理解）、自己調整（目標設定・粘り強さ・感情コントロール）、動機づけ／自己効力感（やればできる感覚）、共感性（他者の立場理解）、対人関係・協働（コミュニケーション、合意形成）、責任ある意思決定（倫理性・リスク判断）などを指します。

○ソアン×社会情動的スキル

具体例：自己効力感・やり抜く力・共感性・協働力・自己制御・メタ認知・創造性など。
目的は「正解を覚える」より正解をつくる力を育てること。ソアンでは、実社会の挑戦→対話とふり返り→次の実行の循環でこれらを伸ばし、ポートフォリオや簡易ルーブリックで可視化します。



上段右の図は、2024年度の総プロジェクト数と2025年度の目標プロジェクト数を示しています。下段のデータは、ソアンの活動参加前と参加後における意識の変化を表しています。

STUDENT'S VOICE

あなたにとってソアンとは
どのようなものですか

- ・挑戦や機会を提供してくれる場所
- ・夢を叶える場所
- ・自分のできることを伸ばせる。相手も自分も幸せになれる。人と関わる大切さを知ることができる。
- ・将来の視野を広げること
- ・自分らしさを発揮できること
- ・一人では挑戦しにくいことも挑戦できる
- ・将来の道を広げてくれるもの
- ・将来を支える一つのプロジェクト
- ・人と交わる機会、社会貢献などに興味を持つチャンス。知りたい、やりたいという積極性を生み出す。
- ・いろいろな方法で人と関われること
- ・自ら人の役に立とうとする積極性を育てる機会を作る
- ・地域貢献活動
- ・人生の可能性を広げ自分の興味のある体験ができる。人と関わることを通じて沢山のことが学べる
- ・社会に貢献できる貴重な場
- ・誰かを助けて誰かを楽ませて笑顔にすること
- ・中学生の時からいろんな体験ができて将来を考えるととてもいい機会
- ・人のために動くことができる気持ちを持てるもの



左上の図は、毎年全校生徒を対象に実施しているアンケート結果です。左下は、ソアンの活動を通して伸びたと感じるスキルの内訳。右上は、ワクワク度と参加満足度を示しています。



上段は男子生徒の伸び率、下段は女子生徒の伸び率を示しています。



ソアンは、教育にできることを考え、「語れる体験をあるか」を問い続ける、社会体験型教育プログラムです。

左から学年ごとにスキルの伸び率を示しています。このデータから、学年が上がるほどソアンの参加年数が異なるため、初期値（ベースライン）が学年ごとに違うことが分かります。

STUDENT'S VOICE

あなたにとってソアンとは
どのようなものですか

- ・ソアンで新しい職業や活動を学んでより興味もちましたそして移動時間で仲を深めました
- ・自分の成長
- ・普段よりワクワクする授業
- ・新しい世界
- ・Do For Others
- ・地域貢献が身近なものであることに気がつきました
- ・自分の好きを見つけ、人のため地域のために貢献することの楽しさを知る
- ・人生の可能性を広げ自分の興味を持つ体験ができる
- ・熱中する自分を見つけていることができるプログラム
- ・人を笑顔にする
- ・社会貢献プロジェクトを通して奉仕の精神の大切さを知りました。
- ・私が考えるソアンはただの社会貢献の場ではなく、一人一人が絆を深めあう交流の場だと考えています。
- ・私は、ソアンを通して地域の方々とたくさん交わることができました。このことは、将来の職業のためまた、ほかの人のために行動する大切さ。またそれを行うことによって得られる幸せを知ることができました。
- ・ソアンを通して、地域と改めてかわって来て、人とかわかることはいいなあと感じました。いつも家でこもっていたので、こういう活動とは無縁で、関わりたいたしてもほぼ無縁だったので、地域貢献を通して、もっと関わっていきたく思うようになりました
- ・ソアンをとおして人の欠点を補いあい励ましあったりする暖かさ人の素晴らしさを感じました
- ・ソアンを通して私は人のために何ができるかを考えるようになりました。誰かのため。を一番に考え、協力し合い助け合うことを学びました。
- ・ソアンとは人のために何かをする楽しさを知るもの
- ・ソアンとは、地上に小さな天国をつくる活動
- ・ソアンを通して私たち生徒のなぜだろうという疑問を発見に変えること、この広島三育学院でしかできない体験へつなぐはしごになってくれている私たちに欠かせない存在です。



#AI時代の
教育を
考えよう

SOEN ソアン PROJECT since2023

VISION BOOK

未来を作る教育
ソーシャルアントレプレナー
プロジェクト

ソーシャルアントレプレナープロジェクト

SOEN PROJECT

VISION

教育を通して、
命をつなぐ社会を創り出す。
地域課題を解決し、
地域社会を創り出せる人材を育成する。

1. 自分の豊かさに気づいている人
2. 人のために生きることができる人
3. 地域課題を解決できる人

ソアンが提供する社会体験型教育プロジェクト

- 8つの体験群 -

ソアンは、2025年9月で活動3年目に入りました。

現在は広島県三原市大和町・沖縄県名護市の2拠点で年間100を超えるプロジェクトを提供しています。



自然・一次産業

商品開発・起業

観光・国際交流

キャリア教育

職業体験・インターン

ボランティア

探求・科学

地域×授業

AIが瞬時に知識を提供できる時代に、
私たちは教育をどう考えたら良いのだろう。

MISSION

子どもたちに「本当に必要な学び」を届ける。

社会体験型教育プロジェクト

1. 「語れる体験」

ただの知識ではなく、自分の言葉で語れる経験を積む

2. 自ら機会を創出

待つのではなく、自分から動いてみる

3. できるくやってみる

正解より挑戦を重視する

VALUE

「自己肯定感」を土台に、

AIにはできない人の「知能（編集力）」が育まれる。

1. 自己効力感：自分ならできる、と思える力
2. 自己主体感：自分で選び、行動する力

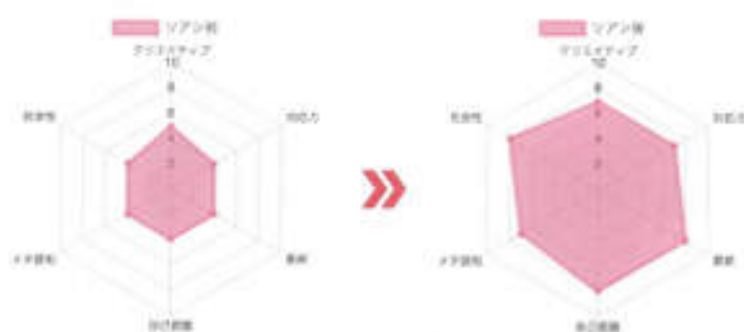
「知能（編集力）」とは

*解説記事



*ソアンを通して測定した数値の推移

- 目的を設定する力
- 問題を再定義する力
- 仮説を立てる力
- 推論する力
- メタ認知する力
- 倫理的に判断する力
- 協働する力



参加した生徒のフィードバックアンケートから見る自己認知の変化

ソアンプログジェクトは、これからの時代を生きる子どもたちにとって
本当に必要な学びを問い続けるプロジェクトです。

-Founder-



中村 光

広島三育学院 中学教諭 経営企画室 ソアン代表
-経歴-
株式会社ソアシズ株式会社
学校法人角川フロンティア学園 高等学校
HBSM (国立広島大学大学院経営管理研究科) 卒

山口 大輝

広島三育学院 事務員 経営企画室 ソアン共同代表
-経歴-
徳島ヴォルティス広島担当
川崎フロンターレ広島担当
株式会社マテリアルP&Dディレクター



必要なのは「教えること」ではなく、“エンパワーメント”（引き出す）。
子どもたちが自分で問い、挑戦し、未来を切り拓けるよう伴走する。

ソアンの事業モデル

“共感”に支えられる循環型事業-

ソアンの活動は全て協賛金によって成り立っています。
離れた場所から協賛金という形でご支援いただく皆様
地域で子どもたちに活動の場を与えてくださる皆様
未来へ命をつなぐという理念への共感が子どもたちへの唯一無二の体験を生み出しています。



ソアン
パートナーズ
制度



子どもたちの
体験機会
毎月発行
ソアンニュース



to the next 50 years

ソアンプログジェクトこれからの挑戦：量が質を生む

ソアンは、日本の教育や若者を取り巻く現状に強い危機感から生まれたプロジェクトです。
不登校や自殺といった深刻な課題、若者の自己肯定感や社会を変えられるという意識の低さ。
これらを「解決すべき社会課題」と捉え、挑戦という形で可視化し、社会にインパクトをもたらすことを目指します。

【2028年までに達成する項目】

① 子供達の自己肯定感

*全国平均
57.4%



65

プログラム参加者の平均スコア

② 社会参加意識の向上

全国調査：
「社会に貢献できる未来」への
期待「全くない」が12.4%



500人

参加人数

③ 地域との協働数

地域の協賛団体・企業



3年で
50

現在：10団体/社

*参考：我が国と隣国間の子どもと若者の意識に関する調査（令和5年度）、文部科学省

SO&N TALK

ソアンの魅力とは？
形式ではなく経験。
理解ではなく実感へ。



「ソアントーク」第一弾は、広島市立大学 国際学部国際学科の山根史博教授をお迎えしました。

山根教授とは、ソアンとして2年連続で協働イベントを企画・運営してまいりました。本対談では、大学の立場から見たこれからの時代に求められる力、そしてソアンのこれからについてお話を伺いました。

①山根先生が取り組まれている地域連携・地域貢献活動について教えてください。

環境問題と農山漁村の衰退を専門に、約25年研究してきました。現在は、学生と地域に入る「地域課題演習」「地域実践演習」と、農山漁村の課題・活性化を扱う「地域再生論」を担当しています。活動拠点は三原市大和町と尾道市生口島。大和町では吉岡康仁さん（米農家）をはじめ新井俊英さん（ワイン醸造家）、湯口真由美さん、三育学院の皆さんと収穫祭や農作業、スポーツ大会で交流を重ね、生口島ではボナブール農生苑で住民向け交流ワークショップを企画・実施しています。

②①の活動に取り組まれる理由、また取り組みの中で感じておられる必要性について

なぜ環境問題や農山漁村の衰退を止められないのか？これについて話し出したらキリがないのですが、すごく簡単に言うと、今の時代は個人差はあれ「なんだかんだでお金が大事でしょう」「自然は科学技術でコントロールできるでしょう」「他人のことは自分のことを優先すべきでしょう」が我々の「常識」になっていて、昔に比べて人は自然や他人のことを自分事として捉えられなくなっているというのが私の理解です。しかも、「常識」であるがゆえにほとんどの人はこの感覚にあらがえない。だから、環境問題や農山漁村の衰退を問題視しつつも、具体的な行動は先送りしてしまう。教員は、この常識から勇氣を振り絞って脱却したい人、あるいはもともとこの常識をあまり重視していない人を理解することではないかと思っています。少なくとも先ほど挙げた皆さんはそういう魅力を持った方々だと思います。活動を続ける理由は、皆さんとの交流の場を作るためです。その交流を通じて、皆さんが持っている良い意味での「常識外れ」をうちの学生たちに少しでも感じてもらい、「常識」の中で生きていくことに疑問を感じたときのヒントにして欲しいです。こういうことは授業ではうまく教えられないので、もううまくできていると信じていることがありますが、それは、うちの学生たちに皆さんのことを「自分事」と考え、活動できるようにしてほしいということです。「常識外れ」になった理由など、皆さんを理解するために、この意識を保ち続けることが重要で、学生たちに主体性と責任感を持たせるために、三育学院さんとの交流イベントや吉岡さんのコマサンタフェスのことは基本学生に任せて、私自身はしゃしゃり出ないようにしていますが、この意識の部分だけはだけ担保しないといけない。これは私にとって難題です（笑）。



③ソアンの魅力について

先ほど「常識」の問題点と「常識外れ」の重要性について話をしました。学校というのにはある意味強い存在です。というの、学校は子供たちに「常識」をインストールし、「常識」の中の生き方を教えることを社会から強く期待されている面があるからです。だから、学校は環境問題や農山漁村の衰退を助長してしまっている面もある。もちろん、環境問題のように「常識」のせいで社会が行き詰っている面があることも子供たちに教えるはします。教えるはするけど、「常識外れ」を優先的に育てようとしている学校はめったにないんじゃないでしょうか。「それより読み書き算盤を教えてよ」という社会圧がありますし、むしろ「一応教えています」という事実を作ることができればそれで良しとする所が大半かもしれません。

ソアンニュースの記事を読んでいると、ソアンの根底にあるのはこの状況の打破にあるように感じます。社会貢献は美徳（いいこと）だよねという感覚」という点では今も昔もその価値あることなのですが、美徳が形式的なものになってしまっていて、美徳止まりというか、それに肯定的な理解を示すだけでとりあえずOKとなってしまう、なかなか実行に移す人が出てきにくいですよね。例えば、有機農業などは形式的な美徳だけでは始められないし続けられない。その人の中で美徳以上の何かを持っていなくて、個人的に、美徳は「常識」の枠の中で人々に共有されている感覚で、美徳以上は「常識外れ」の人でないとしつかり掴めない感覚なんだと思います。

美徳以上の感覚の獲得は、教室の中に行うだけでは、先生から指示されたことに取り組むだけではかなり難しいと思います。社会に出て、自分たちで考えて汗かいて、それがうまくいっていい部分もちゃんと受け止めて、嬉しかったり悔しかったりの感情が生まれてのサイクルが必要だと思います。おそらく一番大事なものはこの感情（人の原動力）です。

教室外学習の情動効果 —関与が学びを更新する



これからの教育について
ソアントーク

No. 1/3

【地域で学ぶキャリア教育についてどのよう
にお考えでしょうか？】

予備不能な時代にあつて、キャリア教育は
単なる職業選択のガイダンスではなく、最
終的に自分自身の「正解」生き方・在り方
を見いだすための確かな手助けになると感
じています。将来の姿を外から与えられる
答えとして受け取るのではなく、内側から
問い続けて形づくっていく営みこそがキャ
リア教育の核であり、そのプロセスが人生
の舵取りを自分の手に取り戻させてくれま
す。

そのために必要なのは、社会等から得られ
る断片的で表面的な知識だけに頼らないこ
とです。実際に身体を動かして、現場に立ち
会い、成功も失敗も含めて経験すること
しかつかめない学びがあります。そうした
実践的な体験の積み重ねは、自己肯定感や
自己受容感といった、生きる上での「根っ
こ」をじっくりと育みます。根が深く張れ
ば強さほど、どんな風向きにも耐えながら
自分らしく立ち続けることができます。

さらに、地域で出会う多様な人や価値観に
触れることは、関心の輪を自分だけに閉じ
ず、他者や社会へと広げていく契機になり
ます。身近な声や現実と触れることで、課
題は抽象的な、誰かの問題から、具体的
な「自分ごと」として、現実的に変わっていきま
す。この視点の転換が、学びを行動へとつなぐ
推進力になります。

そして、その過程で育つのは、地域課題を
自分事として引き受け、正解の用意されて
いない「答えのない課題」に挑み続ける姿
勢です。唯一の解を求めるのではなく、試
行錯誤を重ねながら仲間と協働し、折り合
いをつけ、前に進めていく力が鍛えられま
す。こうして培われる協働の力と実践知こ
そが、変化の激しい環境においても自らの
道を切り拓き、しなやかに歩み続けるため
の土台になるのだと実感しています。



【ソアンの活動について又は今後のソアンの
連携についてお考えがあれば教えてください。】

ソアンは、まさに前段で述べた理念と実践を具
体的に体現している取り組みだと強く感じてい
ます。これからは、生徒たちとともに多様なプ
ロジェクトに挑戦を重ね、学びを行動へとつな
げていきます。その積み重ねによって、関わる
人の輪が広がり、互いを支え合う空気が育まれ
ていくはずです。最終的には、大和町がより一
層「温かさ」と「可能性」に満ちたまちへと成
長していくことを目指し、歩みを止めずに取り
組むを続けていきたいと思っています。

○あとがき
「おせっかいさん」という名前を初めて聞いた
とき、どこか懐かしさ、親しみを覚えました。
しかし、話を聞くうちに、その言葉の奥にある
哲学、気づかされることがあります。
それは、他者に関心を持つこと。
困っている人に手をかけること。
そして、子どもたちの「やってみたい」という
気持ちを信じ、背中を押すこと。
現代社会では、効率や成果が重視されるあま
り、こうした「おせっかい」が失われつつありま
す。

けれども、この町ではその言葉が、生きる知恵
として、地域の文化として、息づいていまし
た。
おせっかいさんの活動には、「教育」と「地域づ
くり」の垣根を超えた、深い意味があります。
子どもたちは地域の課題を通して、自分の生き
方を見つけ、地域の人々や子どもたちを通して
、自分たちの町を見つめ直している。
そこには、まるで、思ひこく、のように、優しさ
が循環しているのです。

印象的だったのは、クラウドファンディングで
活動費を集める生徒の姿や、廃寺を「寺子屋」
に変えようとするプロジェクトの話。
どの取り組みにも、子どもたちが自ら考え、行
動する姿勢がありました。

ふるさとをつなぐ “おせっかい”の輪

これからの教育について
-ソアントーク-

No. 2/3



大人たちはそれを支える、伴走者として寄り添
い、地域そのものが生きた教科書になっていま
した。

「正解のない時代を生きる力を育てたい」
代表のその言葉が、取材後もずっと胸に残って
います。

学びとは、教科書の中だけにあるものではな
く、人と人との関わりの中にある――
おせっかいさんの活動は、そのことを私たち大
人にも思い出させてくれます。

この町の小さな実践が、やがて他の地域にも、お
せっかいの連鎖として広がっていくことを願っ
て。
きっとその輪の中心には、今日も笑顔で動き続
ける「おせっかいさん」と、未来を見つめる子
どもたちの姿があるでしょう。

SOAN TALK

大和町から生まれる
キャリア教育の新しいかたち

おせっかいさんが
つなぐ未来とは？



「地域法人おせっかいさん」代表・村上朋子さん

「ソアントーク」第2弾のゲスト
は、三原市大和町で任意団体
として活動する「地域法人おせ
っかいさん」代表・村上朋子さ
ん。
同団体はふるさとを学びの教
室に、を合言葉に、子どもたち
と地域をつなぐボランティアア
ググループです。地域の方々や企
業、卒業生が「ふるさと先生」
として参加し、畑仕事や商品開
発、地域行事の運営サポートな
ど、実社会に根ざした学びの機
会を子どもたちへ届けていま
す。活動の過程で培うのは、教
科書だけでは得にくい企画力、
協働性、そして、人の役に立
つ実感です。
また、子どもたちが考案したレ
ジビを商品化して販売したり、
クラウドファンディングで活動
費を集めるなど、地域の応援が
循環する持続可能な仕組みづく
りも前進。使われなくなったお
寺を「寺子屋」として再生し、
宿題サポートや世代間交流の場
を整える計画も進行中で、学び
と憩い、挑戦と応援が交差する
拠点づくりが動き出していま
す。
今回は、村上さんに「大和町
に広がる、子どもと地域の学び
合い」の現在地と、これからの
展望をじっくり伺いました。

SOEN TEAM PROJECT

一年通して、
仲間と“本番”をつくる。



新しい教育観を作り出すチームプロジェクト
TEAM
2025 ソアン 教育は変わる
生徒が動かす
自ら機会を作り出す組織作り
動 ソアンの組織

仲間と回す、学びのPDCA。
終わらせない挑戦が、次の本番を連れてくる。

中高生が自ら手を挙げ、選抜されたメンバーでチームを編成。リーダーを決め、定期的なランチミーティングで合意形成を重ねながら、企画・準備・実行・振り返りを通年で回す。それがソアンチームプロジェクトです。

教員が、主役ではありません。意思決定はチームで。必要なのは完璧な答えより、小さく試して速く学ぶ姿勢。実行後は必ず振り返り、次の一手へと学びを循環させます。

2025年度は7チームが活動。地域のリアルな課題に向き合いながら、リーダーシップ、協働力、合意形成、そして「やればできる」という自己効力感を育てていきます。挑戦の舞台は教室の外へ。そこで得た手応えや失敗も含めた経験を「語れる体験」として次のプロジェクトに手渡し、挑戦が文化になる学校・地域をめざします。



チーム
レッドボランティア
ナームガイボランティアでは、広島県でガイボランティアを実施します。



チーム
ニョウモンモドキ
チームニョウモンモドキでは、動物保護のヒーローモドキを制作します。



チーム
いのち
チームいのちでは、あひるやひよこの育成を計画し、地域と連携を行い地域に返します。



チーム
プロポーズ
チームプロポーズでは、三原市唯一の島、島島島を舞台に地域活性化に取り組めます。



チーム
スマイルラボ
チームスマイルラボでは、地域の芸術家のお子と交流で提供される絵の模範を収集します。



チーム
ソアン
チームソアンでは、地域の伝統を継承して、地域の発展を促す商品開発や活動をします。



チーム
あきんど
チームあきんどでは、県内のお学生を対象とした商品開発プロジェクトを実施します。



報告会
チームプロジェクトでは、チームの方針や取り組みを全校生徒の前で報告する機会を設けています。



ソアンパートナーズ
協賛・協力企業等一覧



ソアンを
応援する

協賛金：2,245,033円
※令和5年度

ソアンプロジェクトにご協賛・ご協力いただきありがとうございます。

一般社団法人サムワン基金 おんおくり奨学金

次世代へ「よい社会を受け継いでいく」という願いを込めて。
「社会貢献を喜びとする」人物を目指す人にぜひ受け取っていただきたい。
これまでにない全く新しい奨学金の制度です。
「未来への感謝」誰かのために見返りを求めず働くことを通して「社会の奉仕者になることを希望する」高校生とその保護者に対し、その意思と姿勢を評価し給付する奨学金です。将来、社会人になった時に「誰かのために働くこと」「社会に奉仕すること」が当たり前になる人物を育成します。



医療法人社団 飛翔会 寛田 司 様

医療法人社団 飛翔会の理事長の寛田司です。私は広島三育学院の前身の日本三育学院の卒業生で、子供達三人は広島三育学院卒業生です。当法人にも二名の卒業生がいます。当法人は、整形外科・内科・皮膚科・小児科・産科・リハビリテーション科の診療科目を有し、スポーツチームのケアの経験を通して、スポーツ選手・外傷患者を対象として、診療から検査、リハビリテーションまで一貫したシステムで診療を行っています。スポーツ選手の怪我を一般診療に引き、「運動」を用いた予防医療、生活習慣病治療を日々進めています。また、アスリートに対しては、スポーツ医科やその動作を考慮して、筋力、柔軟性、バランスを重視したコンディショニングも行い、早期回復を支援しています。

飛翔会グループ

広島三育学院後援会

後援会は、卒業生、保護者と親類による広島三育学院の応援団です。今の時代に必要とされる広島三育学院の教育を様々な形で応援します。

sakai family fund

ミツケサロン代表

第三回卒業生 坂井 等 様

"Let's start giving."

"与えることから始めよう"



株式会社スマイルアグリ(SMILE-LABO HIROSHIMA)

国を通じて、一人一人の笑顔が広がる豊かな未来を創造し「笑顔」が溢れる社会を築くための研究所。社員一人一人が研究者であり、笑顔が生まれるために必要なもの、笑顔を増やすこと、笑顔がもたらす未来を見据えて大和町、三原市、広島県から世界へ、笑顔と共に事業発展と社会貢献に邁進します。

株式会社とまとはうすコーポレーション 吉岡 康仁 様

広島県三原市大和町で17代目の米農家としておられます。農産物、加工品を中心に製造しながら、お祭りの主催もしております。広島県三原市大和町より、皆様を応援しております。

社会福祉法人みどりの町(Greentown Peace Project)

わたしたちは、誰がいのちある・なしにかかわらず、自分らしく、楽しく、心が豊かで平和な暮らしが実現できる地域共生社会の実現を目指す社会福祉法人です。

ソアンパートナーズ



海老原 行男 様	田中 仁美 様	坪井 大地 様
亀山 靖人 様	賀嶋 文子 様	村上 寛 様
下地 真樹 様	森山 元貴 様	藤谷 晋子 様
野間 俊二 様	中村 修 様	松田 健 様
上田 洋一 様	上田 真子 様	石川 哲也 様

株式会社創心万華鏡 三育フーズ株式会社

ソアン協賛
申し込みフォーム



ソアン「で」支える。ソアン「を」支える。
応援の形はそれぞれの形で。

ソアンで「誰か」を支えたい。その「ソアン」を支えたい。その思いをソアンパートナーという形で実現してみませんか。



自ら機会を作り出す
人材を輩出する

2025
特別号

SOEN

語れる体験はあるか

AIに代われない、
語れる体験を。